

## 豊能町総合まちづくり計画審議会（第7回）議事概要

日 時：令和3年11月16日（火）午後14時00分～16時10分

場 所：豊能町役場2階 大会議室

出席者：委員15名、事務局3名

傍聴者：3名

### 1. 《議事》総合まちづくり計画 基本構想（案）について

### 2. 《議事》総合まちづくり計画 基本計画（案）について

（1）以下の事項について事務局より説明があった。

①総合まちづくり計画 基本構想（案）（資料1）

②総合まちづくり計画 基本計画（案）（資料2）

（2）主な質疑、意見

〔会 長〕本計画の策定時にはなかった新たな施策については、どのように取り組むのか。

〔事務局〕計画に載っていない施策はできないという訳ではない。10年計画ではあるが、中間年度の5年で見直しができるため、進捗やその時点での状況を見て変更することは可能だと考えている。

〔会 長〕この計画には、デジタル化や環境問題があまり強く出されていないが、国の政策と本計画との関係はどう考えているのか。

〔事務局〕国の動きや社会潮流には当然乗っていかねばならないが、方向性については今回の計画に盛り込んでいると考えている。具体的な内容については、それぞれの下位計画に記載していく。

〔委 員〕資料2の第3章にK P I 評価項目があるが、見方が分からない。

〔事務局〕「新規出店」と書いている項目は、それぞれの年にその数の出店を目指すということ。「年間閲覧件数」については、1年間の目標件数を示しており、年を追うごとに目標値を上昇させている。

〔委 員〕基本目標4のK P I 評価項目に「地域づくりに関する学びの場の年間開催回数」とあるが、開催回数で評価するのはわかりづらい。何人来たかという評価にしたほうがわかりやすいのではないか。基本目標2のK P I 評価項目に「地域の意見が学校運営に反映された回数」とあるが、これもわかりづらいと思うので、満足度で評価したほうがよい。同じく基本目標2のK P I 評価

項目に「待機児童数」とあるが、現状が0なので取り上げる必要はない。ただ、希望の園に通えていない実態があると思うので、幼稚園も含め満足度で評価してはどうか。基本目標3のK P I評価項目に「特産品を使用した新規商品（とよのブランド）の開発数」とある。以前に特産品がとよのんである必要性はあるのかという意見を出しており、事務局からは特に取り組むものとして掲載していると回答があったが、10年間の合計が2だ。特に取り組むものとしていても結局2しかないのであれば、とよのんを前面に出さなくてもよいのではと感じた。

〔委員〕第3章について、以前は総合戦略が独立したものとしてあったが、今後は総合まちづくり計画に組み込んでいくことになったため、この章は参考に付いている程度だと思う。その辺りどうなのか。

〔事務局〕総合戦略については5年前に策定しており、今回の総合まちづくり計画の中に出てくる人口ビジョンや基本目標はその総合戦略を踏襲している。総合まちづくり計画として新しく変わるにあたり、総合戦略と一体化した計画となっている。総合戦略の進捗については別の審議会で管理していく。

〔会長〕総合戦略が第3章に入っているということは、この審議会で議論しなければならないと思う。委員ご指摘のK P Iについても適切な数値への修正を行うべきだ。第1章、第2章と第3章の整合性を図る必要もあると思う。

〔副会長〕総合戦略とこの審議会との関係を説明いただきたい。そもそも第3章は必要か。

〔事務局〕これまで総合計画と総合戦略は別々の計画で、それぞれの審議会で議論していた。総合戦略の策定は努力義務とされているが、総合まちづくり計画には総合戦略の考え方も取り入れるほうがよいということで、総合戦略と一体的な計画にしようとした。そのため第3章として総合戦略の考え方や施策体系が入っているわけだが、総合戦略の中にあるアクションプランを立てることやK P Iの評価については総合戦略審議会で議論をお願いするものと考えている。

〔副会長〕総合まちづくり計画は最上位の計画である。下位計画はこれまでもいろいろあるが、全部は掲載していない。それゆえ下位計画にあたる総合戦略について記載した第3章を入れるかどうかを検討したほうがよいと思う。

〔委員〕総合戦略は介護保険や福祉計画と同じく下位の計画である。だから総合戦略のことが記載されている第3章は削除してもよいと思う。ただ、総合戦略が総合計画の一部というのであれば、その旨だけはどこかに記載しておいてはどうか。

〔会長〕既に福祉や教育の計画が策定されており、それらを総合まちづくり計画で再度見直すわけにはいかないの、策定済の計画との整合性や連携の認識さえ

保っていれば、総合まちづくり計画の中ですべての下位計画にふれる必要はない。その論理で言えば、第3章をここに入れる必要性はないというご意見が出ている。

[委員] 行政は、それぞれの部署で計画をつくり目標を立てる縦割りの状態がずっと続いている。だが、横のつながりも大事という思いを持って第3章を書かれたのではないか。第3章は要らないという意見もあると思うが、部署的にバラバラのものをここで横並びにするイメージを持ってつくっていると感じた。

(事務局) 各施策を計画に落とし込むと横並びのような感じだが、実際にはすべてを同時に実行していくことは難しい。そのためどうしても凹凸が出てしまうが、連携しながら各施策を進めていきたいと思っている。今は一体化ということで基本計画の第3章に総合戦略を入れているが、基本計画から外して総合戦略の審議会で議論していただく形に切り替えることも可能。

[委員] 計画の中では当然目標を立て、最終的にはK P Iに落とし込む必要性も出てくる。第3章は参考としてあっても構わないが、今はまだそこまで落とし込んでいない。だから、第3章を付ける、付けないという前に基本計画そのものを分析していく必要がある。第3章をどうするかという議論よりも今何ができればよしとするのか、それを落とし込むことが必要だと思う。

(事務局) ここでの議論の続きとして第3章があるのではというご意見をいただいた。確かにそのとおりで、人口ビジョンを織り交ぜてこの計画を立てるという考えがあったため、第3章を付ける形になった。

[会長] 第3章は外すということか。確かに基本計画の数値目標について議論するレベルに達していないのにK P Iが第3章に出てくるというのは断絶があると思う。

(事務局) 第3章については切り離し、総合戦略の審議会で議論していただくことにする。

[委員] 第3章は外しても、総合戦略というものがあることだけは人々に認識してもらえるような記載をする必要があると思う。

[委員] 最初の審議会で総合まちづくり計画と総合戦略を一体化したいという話があった。それなら進捗管理も当然総合まちづくり計画の中で一緒に行うものという理解をしていたが、別々に管理するのであれば分ければよいと現時点では思う。

[委員] 資料1の計画の位置づけに、総合まちづくり計画と総合戦略の関係性が示され、資料2の総合戦略の考え方に「特に取り組む施策」と書かれている。今後のスケジュールで計画終了まで実施計画の毎年の見直しと、K P I等の目標を新たに設定するとなっているため、私は今の流れでおかしくないと思う。

- [委員] 第3章は参考程度に付けておいてよいと思ったが、よく見れば第3章以前はもう少し広いことが書かれており、第3章になると急に細かくなっている。第1章、第2章と第3章ではレベルが違う感じで、参考程度とするには目立ちすぎるため、第3章を外したほうがすっきりするという印象を受けた。
- [委員] 第4次総合計画の実施計画から項目をピックアップして総合戦略をつくったのなら、今度の総合まちづくり計画の中でも実施計画がある訳だから、再度協議をしながら計画を進めていく形になるはずだ。いろいろと意見はあるが第3章については削除するほうが総合まちづくり計画としてはきれいな冊子になると思う。
- (事務局) 資料1の計画の位置づけで進捗管理を一体的に行うものとしていたが、今の意見を踏まえて考え直す必要があると思う。本審議会とは別に総合戦略の審議会もあるので、第3章については一旦切り離し、総合戦略審議会で議論したいと考えている。
- [会長] 結論としては第3章を外し、総合計画と総合戦略の関係性は示すということでよいか。
- (事務局) その方向で修正するが、資料1の5ページも書きぶりが変わってくると思うので、この辺りも調整する。
- [副会長] 主要な取組みのうち新規が22ある。第4次総合計画の経験を踏まえたうえでのはずなので、第4次総合計画で課題となったものを優先するべきだと思う。先ほど施策数は多いが実は凝縮できるという説明があった。主要な取組みをもし凝縮するなら、どのくらいまでできるのか。10年後の人口は15,000ということで減少するわけだが、それは職員数の減少も意味する。果たして今より少ない人員で主要な取組みが実施できるのか。
- (事務局) 第4次総合計画からの課題については、基本的には今回の主要な取組みの中に入れていく。今後の人口減少に伴い職員数も減る中、新規の施策がどこまでできるのかという点だが、今の時代に合わせた形で新規のものを打ち出している。本当にこれだけの取組みができるかと言えば厳しいというのが正直なところだが、オンライン化や外部委託、民間との連携といった手法で実施していきたいと考えている。
- [副会長] 3分の1から2分の1近くが新しいものとなる。膨大な役場の仕事量に新規のものを加えるからには、ある程度用途を付けておくほうがよい。主要な取組みの中で複数の課が関連していることも考えられるので、その「見える化」が大事だ。各課の一体的な融合のためには、この審議会が重要な役割を果たす可能性があると思う。
- [委員] 基本構想、基本計画は現状の課題からつくられているわけだが、まだ to be の段階で can be になってない。いかに「できる案」へ落とし込めるかが重

要で、その際に指標が必要になる。その指標はまだ確固としたものではなく、さほど大きな問題ではないが、議論があるということはこの案に対して誰も信念を持っていないのだろうと思う。

〔委員〕総合計画自体が第4次までであるということは、今の段階でかなり目標が達成できていなくてはならないはずだが、また1からやり直しのレベルである。今回が最後の砦（とりで）と捉え、行政と住民が一丸となって徹底的に頑張らなければならない。目標を高く掲げるのはよいことなので、それをベースにせめて6合目までは目指し、無理なものは途中でやめ、各プロジェクトが共倒れにならないようにしていくべきだと思う。

〔副会長〕いつ見直すかということ言えば、令和8年度に必要な見直し行うと書いてある。この見直しでスクラップが果たしてできるかどうかだ。今回22の取組みをビルドしているが、見直しの段階で59ある取組みのうち1つもスクラップしなかったら、町の財源をはるかに上回る可能性があると思う。

〔会長〕必要な見直しを行うのは当然の話で、課題が見えているのにそれをどうしていくのかということが書かれていない。それでは読む人を不安にさせる。新しい取組みを進めるにあたっては人材の確保や財政面についてもきちんとふれておく必要がある。

〔委員〕各施策に「住民にできること」という文言が入っている。今までの施策は行政主導で住民は受け身の状態であったが、時代は変わり、住民も一緒にという共生の姿勢でまちづくりをしていく方向になってきた。「住民にできること」という項目があることが今後のパブリックコメントで示され、それによって住民への意識付けができるので、この項目ができてよかったと思う。公務員の減少問題の話があったが、定年を迎えた会社員等の人材を町が掘り起こし、皆で話し合いながらまちをつくっていくというのはどうか。ひとごとではなく自分の問題だという意識で取り組んでく気持ちがあれば何とかするのはないかと思っている。

〔委員〕町政懇談会の内容がホームページに載っているが、住民からは要望ばかりで自分たちは何もしないというのが実態だ。60歳が定年の時代なら若いうちに地域になじめるが、今は70歳ぐらいまで働く人が多い。そういう人たちが退職後に地域に出ても協力体制を望むことは難しいと思う。

〔事務局〕地域共生という言葉は随分前からあるが、なかなかそこまでできないのが自治体。住民の方がいろいろなことに取り組みされているのは現場に出れば見えてくるが、職員が住民の方と接する機会があまりない。地域共生をするのであれば職員も意識を変え、どのようにすれば住民の方と一緒に取り組んでいけるのかという視点を持つべきだと考えている。住民の方と一口に言っても個々の考えがあるわけで、それぞれの立場を尊重しながらまちづくりを考え

ていきたいと思っている。

〔委員〕町の実態を聞くと、方々でいろいろな取組みをされている。それを取り上げ、生かしていくことが大事だと思う。町の変化あるいは町民の動きを的確に捉えて施策を打つべきだ。伸びる力を生かすような精神でなければならぬと痛感している。行政の気持ちが計画の中からにじみ出るようなものであってほしいと思う。

〔委員〕基本計画の中に「住民にできること」という項目があるのは、私も新鮮だと感じている。これからは自助・共助・公助の精神が大事で、特に防災面でそういった視点が重要になってくる。「住民にできること」という項目を立てた意味は非常に大きい。これに紐づくアクションプランの中にも住民がすべきことを明記していきやすくなったと思う。

〔委員〕行政が住民の中へ入っていても、住民は拒絶するばかりだ。町は以前から住民と協働していこうとしているが、厳しい状態が続いている。高齢者ほど弁が立ち、職員が住民の中に溶け込んでいくことは難しいと思う。住民参加の形になるには10年ぐらいかかるのではないか。その間職員数も減るという非常に厳しい状況になってくる。住民説明会でも大半の住民は苦情を言うだけで、一部の人だけが町と協力しようと言っても潰されるケースが多いというのが私の実感である。

〔委員〕生活支援の有償ボランティア団体を運営しているが、メンバーの多くが仕事をリタイアした男性だ。家具の移動等大変な作業もあるが、利用者の方からの感謝の言葉を聞くだけで頑張れるとメンバーは言っている。将来的にはこの組織を若い人たちにつないでいき、町を支える団体になればという思いを持っている。協働についてだが、広報等で住民に呼びかけてはどうか。苦情ばかり言う時代は終わっている。協力的な住民もいると思うので諦めないでほしい。

〔委員〕「見える化」ができれば住民も安心すると思う。「住民にできること」を実践するうちに住民側に困りごとが出てきた場合でも、関係課がわかっているからこの課に相談すればよいと思えるからだ。皆でこの総合まちづくり計画を見て常に振り返る、そういう10年間になればよいと思う。

〔委員〕主要な取組みの中で新規が多いとの意見があったが、第4次総合計画と比べて新規ということで、既に取り組んでいるものもあると感じている。まちづくりを進めていくうえでは職員の確保と育成が必要である。多いときは300人近くいたが今は150人以下だ。致し方ない部分もあるが、これ以上減ると行政が立ち行かなくなると思う。

〔副会長〕資料2の5ページ、※の箇所に加筆が必要かと思う。既に取り組んでいるものもあるということなら、その説明をしておくべき。もしくは、既に取り組

んでいるのであれば、新規のアイコンを外してはどうか。住民の抵抗が強いという話は、どの市町村でもよく聞く。それについて担当部署の人が歯を食いしばって対応している状況というのが現実だと思う。

〔会 長〕資料2の5ページ、※の箇所についてだが、全くの新規ではないものもあるということは、その旨を書きしておく必要があると思う。第3次総合計画の策定時に60歳で退職された方が米作りで農業を活性化させたという話を聞き、実際に見学もした。70歳まで働くと元気な10年間で地元還元されないというのはそのとおり。そういう状況の中でこの計画を進めていくには、もっと大きな仕組みづくりが必要になってくると思う。NPOやまちづくり公社、ボランティア等の協力が不可欠だと思う。

〔会 長〕住民から机上の空論と思われる計画になってしまうような事態は避けたい。今後パブリックコメントを実施して、寄せられた意見を加味し、最終決定する運びとなるが、パブリックコメントに出す案について、事務局から何かあるか。

(事務局) 基本計画の第3章は削除する。基本構想に「総合戦略と一体的に策定」という記載があるため、そこは修正する。基本計画の5ページ、※の箇所については補足説明する。事務局で作成したものを会長に承認いただければ、それをパブリックコメント案として出したいと考えている。

〔会 長〕総合戦略については一言もふれないということか。最初の審議会で総合戦略と一体的に策定するという説明があったはずだ。

(事務局) そこも含め会長と協議させていただきたい。

〔副会長〕時間を要する話なので一旦事務局預かりとし、メールで委員の賛同を得るといった方法がよいかと思う。

〔会 長〕その方法を取ることにし、また皆さんに連絡させていただく。

### 3. 閉会

(1) 午後4時10分に閉会した。

### 本議事録にかかる会長の内容確認・署名

本議事録について議事内容と相違ないことを確認する。

豊能町総合まちづくり計画審議会会長

会長署名